

主体性評価についての茨城大学の考え方

茨城大学では、学生一人ひとりが主体的に学びに向き合い、振り返りによって学びを改善しながら成長する「学びのプロセス」を大変重視しています。このような考え方に基づき、大学入学者選抜の「面接等を課さない一般選抜」では、受験生全員に対して、本人が申告したチェックシートと調査書により主体性評価を行います。主体性評価は、50点満点で段階評価です。

主体性評価を一般選抜（前期日程・後期日程）に幅広く導入する目的は、主体性をとおした受験生の「振るい落とし」ではなく、高校教育に主体性の育成が重要であることを、本学からのメッセージとして明確に伝えることです。これにより、高校教育の質的転換が図られれば、大学教育の改革にもつながります。すなわち、主体性評価を点数化することは、いわゆる「マッチング入試」に相当するものだと考えています。本学の主体性評価が、今回の高大接続改革に対して一つの方策を示したことになります。

「主体性・多様性・協働性（学力の3要素の3番目）とはそもそも何なのか」という問いに対する本学の答えは、「将来、課題設定力と課題解決能力等を大学で修得するために必要な態度・姿勢」です。すなわち、「主体性・多様性・協働性」は「思考力・判断力・表現力」（学力の3要素の2番目）を獲得するために不可欠なものです。課題を解決するためには、高校段階で身につける「論理的思考力」だけでなく、「批判的思考力」や「創造的思考力」が必要です。大学で「批判的思考力」と「創造的思考力」を本格的に修得するために、高校段階では「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」をしっかりと身につけてきてほしい、という具体的メッセージを込めて主体性評価を行います。

主体性は態度や資質であり見えにくく、客観的に測りにくいのは事実です。その上で、受験生本人が申告したチェックシートを尊重します。本学での主体性評価は、これまでに公表しているとおり、様々な学びの成果（結果）に対して行うのではなく、そのプロセスを評価したいと考えています。その結果、自己申告によるチェックシートを利用することにしました。また、ポートフォリオは高校教育の現場にまだ十分に浸透していない現状を鑑み、令和3年度入試においては、従来からの調査書のみを提出してもらうことにしました。さらに、受験生及び指導する高校教員に新たな負担をかけるような文字入力はできるだけ避けたいと考えています。すなわち、今回の入試改革では、受験生や高校教員に対して新たな負担や心配をかけないことを、本学の基本方針としています。

学びの成果ではなくそのプロセスを本学が重視する理由を最後に述べます。本学は高校生に対して、高校生らしく様々な学びに積極的かつ主体的に取り組んでもらいたいと、強く願っています。教科学習だけが学びだとは考えていません。様々な学びに向き合う中で重要なのは、「振り返り」です。この「振り返り」をとおして学びを「改善」することができれば、「成長」につながります。学びに向き合いながら、振り返り、改善、成長のサイクルを数多く積み重ねることによって、主体性を身につけ、自己肯定感を高めることができると考えています。